

式 辞

新型コロナウイルスの感染拡大により、このような形での卒業式になってしまい大変残念に思いますが、現下の状況は皆さんもおわかりのことと思いますし、また理解していただけるものと思っております。

卒業式の形式はどうであれ、教職員及び在校生一同が、皆さんのご卒業を心からお祝いする気持ちには変わりません。

まずもってそのことをお伝え申し上げます。

また、保護者の皆様、ご子息のご卒業誠におめでとうございます。

これまでの御労苦に深く敬意を表しますとともに、入学以来、本校の教育活動にご理解とご協力をいただきましたことに対しまして、衷心より感謝申し上げます。

保護者の皆様におかれましても、我が子の成長ぶりに感慨もひとしおのことと存じます。

さて、卒業生の皆さん、あらためて卒業おめでとうございます。
皆さんの門出を、教職員・在校生一同心からお祝い申し上げます。

本校での高校生活、長い人生の中で、ほんの短い三年間でしかたけれども、一日一日充実した日々であったものと推察いたします。

これまでの皆さんの成長の姿を拝見し、三年前に入学してきた頃とは比較にならないほど、随分大人になったなあと感心しておりました。

ですから、どうかこれからの人生も自信を持って生きていって欲しいと願っています。

皆さんには、これまで全校集会などで、昔話や偉人の残してくれた名言などを数々紹介してきましたが、このメッセージが私から皆さんにお贈りする最後のお話になります。

その最後の話は、皆さんの中にも修学旅行で行った人がいるかも知れませんが、USJあのユニバーサル・スタジオ・ジャパンが経営危機に瀕したとき、独自のマーケティング手法を用いてV字回復させたマーケッターの森岡毅さんが語っていた若者へのメッセージを紹介しようと思います。

森岡さんは、こんなことを言っています。

『二十代は仕事の面で「食わず嫌い」な人が多いが、やってみたら案外できるということが結構ある。

だから、上司から「やれ」と言われたことは、まずは騙されたと思って一度やってみるべきだ。

一日、二日ではなく、半年、一年続けて「やっぱり向いてないな」と思ったら、それ以上は追求しなくていい。

そうやって場数を踏み、自分の得意・不得意を見極めていくことが、非常に重要だと思う。

結果をより出すためには、自分の特徴を生かすしかないからだ。

二十代の時に当たり障りのないことばかりやって、挫折も失敗も経験しないと、自分の強み・弱みはわからない。

二十代の特権とは、己の特徴を知るための様々な経験を貪欲に追求できることだろう。

三十代、四十代になると立場的に大きな失敗はできなくなる。

二十代は失敗しても失うものは少なく、むしろ得られる成果の方が多い。

故に、徹底的にチャレンジして、あちこちにぶつかって、傷だらけになって欲しい。

その傷が「気づき」になり、人間を大きくしてくれる。

「迷ったときは、厳しい方を取れ」ワクワク充実した人生を送るためにチャレンジは不可欠なのだ。

自分にとって意味のあるチャレンジが何なのかを、しっかり考えていただきたい。』というメッセージです。

私もこれまで皆さんにチャレンジすることの大切さをお話してきました。

それは、チャレンジしなければ何も生まれてこないからです。

私は、人生死ぬ瞬間まで、希望の未来は在り続けると信じています。ですから、毎日チャレンジの連続です。失敗なんか恐れません。

自信を持ってチャレンジし続ければ、必ず何らかの活路は見えてくる。そのことを私は知っているからです。

しかし、それは皆さんに教えてあげることはできません。

なぜなら、それは私の経験から導き出される答えであって、皆さんがこれから経験することは、一人ひとり違うからです。

ですから、森岡さんが最後に言っている「自分にとって意味のあるチャレンジが何なのかをしっかりと自分で考える」ことが大事なのです。

さて、皆さんは今日を最後に、この学校を巣立っていくことになります。

それぞれが新しい道を歩んでいくことになるでしょう。

『人生は、いつか来た道、帰る道』

いつかどこかで、この学園のこと、また一緒に学んだ仲間のことを思い出していただければ幸いです。

そしてまた、何時の日か、お会いできることを楽しみにしております。

皆さんの益々のご活躍とご健勝を心から祈念申し上げ、式辞いたします。

令和二年三月一日

白樺学園高等学校 校長 嶋 野 幸 也